

都技 生涯研修 応用講習会Ⅱ

【重要なお知らせ】

1. コロナウイルス感染拡大防止目的により、参加申し込み者のみが視聴できるYouTubeの限定公開システムを用いたオンラインによるセミナー開催となります（*オンライン環境がない方は会場参加可）。
2. **本研修会は東京都保健局よりの委託事業となっております。**
つきましては受講対象者は以下の方に限ります。

- ① 一般社団法人東京都歯科技工士会（都技）会員
- ② 学生
- ③ 東京都内在住在勤歯科技工士

【申込期間】

- 東京都歯科技工士会会員・学生（上記①②番）：8月29日(月) AM10時～
 - 東京都内在住在勤歯科技工士（上記③番）：9月2日(金) AM10時～
- *受付開始日前のお申し込みは無効といたします。 *定員になり次第締切といたします。

【申込方法】

- ① 参加希望者は右記QRコード、もしくは東京都歯科技工士会のホームページからお申し込みください。
ホームページURL：<https://www.to-ginet.com>
- ② 上記オンライン申込をされますと登録されたメールアドレスに自動返信されますのでご確認ください。



申込用QR

【LINE公式アカウント登録のお願い】

緊急連絡、変更&追加報告をスムーズにさせるために都技では試験的にLINE公式アカウントを設けましたのでLINEを使用されている方は、是非とも登録をお願いいたします。



都技LINE公式アカウントQR

【お問い合わせ】

一般社団法人 東京都歯科技工士会
〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4F
e-mail：togi-info@to-ginet.com

令和4年度 応用講習会Ⅱ

オンラインセミナー

人生100年時代のインプラント治療と メンテナンスを考える

～最期まで寄り添える インプラント治療と口腔ケアを求めて～

第1部 「超高齢社会における口腔インプラント治療のあり方」
～最期まで患者に寄り添うために～

第2部 「患者の高齢化に合わせたインプラント・メンテナンス」



Tokyo master course Science Lecture

講師

【第1部】 窪木 拓男 先生

【第2部】 山口 千緒里 先生

【開催日時】
令和4年 **10月9日** 日

入室 **12:40**

開始 **13:00** → 終了 **17:00**

オンラインセミナー

定員 **80名** 参加費 **無料**

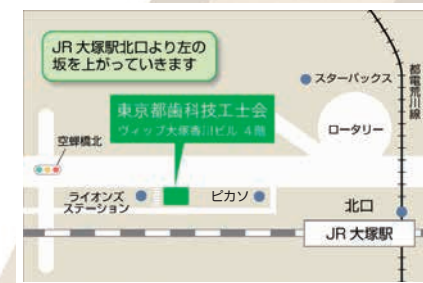
会場受講

定員 **10名** 参加費 **無料**

場所 **東京都歯科技工士会 研修室**
東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4F

【担当】 中央ブロック

一般社団法人 東京都歯科技工士会



人生100年時代のインプラント治療とメンテナンスを考える

～最期まで寄り添えるインプラント治療と口腔ケアを求めて～

第1部 13:00～15:15

超高齢社会における口腔インプラント治療のあり方

～最期まで患者に寄り添うために～

日本は超高齢社会に突入した。歯の欠損が年齢とともに増加することを考えると、口腔インプラント治療を受ける(た)高齢者は必然的に増加することは間違いない。

しかし、インプラント患者を介護現場に迎えた介護支援者の反応はすでに不安に満ちている。すなわち、①インプラント義歯の人工歯根部を撤去せざるにいと、免疫力の低下などにより人工歯根が感染源になりその患者の生命予後を悪化させないか。②脳梗塞や認知症、パーキンソン病などの患者において、咀嚼筋の拘縮などによりインプラント義歯を簡単に撤去できなくなる症例を経験することがある。③口腔内にインプラント義歯があるかどうかを判断し、必要があれば、それを撤去したり、生

活しやすい形に改変したりしてくれる歯科医師が介護現場に少ないなどがその代表である。

よく考えてみると、これらの不安は、インプラント義歯に特異的なものもあればインプラント義歯に限らない固定性補綴物全般に当てはまるものもある。本発表においては、口腔インプラント義歯を患者に施し、生涯メンテナンスに関わる歯科医や歯科技工士、歯科衛生士が、最後まで責任をもって患者の人生に貢献するためには、どのような知識や技をもって対応すべきかをライフステージに照らし合わせて前向きに考えてみたい。なぜならば、このような対応が患者や介護者、さらには歯科医療自体を救うかもしれないと考えるからである。

第2部 15:20～16:30

患者の高齢化に合わせたインプラント・メンテナンス

今日では、インプラント療法は歯科治療の有効な選択肢として普及し、一般的に多くの施設で行われるようになった。40～60代で治療を受けた患者も、時間の経過とともに介護が必要な状態に変化する場合もあり、それまで通院されていた患者が、通院困難になる可能性がある。その場合、患者が希望すれば「訪問」という形に切り替えて、継続した経過観察が必要となる。自施設での訪問歯科診療や訪問口腔ケアを行わない場合には、実施している歯科に依頼することになるが、これまでの経緯や、使用しているインプラントの種類、使用コンポーネントの種類などの詳細を申し送ることにより、現場の混乱を回避し円滑に進めることができる。

上部構造が起因して問題が生じていると判断された場合には、患者、家族、介護者、歯科医師、歯科技工士と

相談の上、何らかの修正を行う必要がある。理想的には、訪問先で煩雑な修正を余儀なくされる前に、通院可能な時期のメンテナンスで問題の発見に努め、必要に応じた修正を加えておくことが望ましい。

患者が訪問歯科診療・訪問口腔ケアを受けるためには、歯科医療従事者間のみならず、医師、看護師、ケアマネージャー、介護スタッフ、ご家族、など多くの「多職種連携」が求められる。歯科技工士・歯科衛生士も、その役割の一端を担うと考えており、社会的な変化や、全身状態を把握した上で、患者の残存機能を最大限活かした口腔ケアを行うよう努めなければならない。

本発表では、これらを踏まえ、訪問口腔ケアの実践について、歯科衛生士の目線からお話したい。

■講師略歴

窪木 拓男

[くぼき たくお]



- 岡山大学学術研究院医歯薬学域
インプラント再生補綴学分野 教授
- 岡山大学病院
デンタルインプラントセンター センター長
- 2007～2009 岡山大学医学部・歯学部附属病院
副病院長(教育・研究担当)
- 2007～2009 文部科学省 組織的な大学院教育
改革推進プログラム「医療系大学
院高度臨床専門医養成コース(H19
～H21年度)」の事業実施責任者
- 2009～2011 岡山大学大学院
医歯薬学総合研究科副研究科長
- 2012～2015 岡山大学歯学部
歯科補綴学第一講座助手
- 2014～現在 文部科学省 課題解決型高度医療
人材養成プログラム「健康長寿社
会を担う歯科医学教育改革(H26
～H30年度)」の事業実施責任者
- 2016 岡山大学副学長(研究力分析担当)
- 2017～現在 ITI Fellow
- 2018～現在 岡山大学病院
デンタルインプラントセンターセンター長
- 1986～1990 岡山大学大学院
歯学研究科歯科補綴学専攻
- 1990～1991 岡山大学歯学部
歯科補綴学第一講座助手
- 1991～2000 岡山大学歯学部附属病院講師
- 1994～1995 文部省在外研究員(若手長期)と
してアメリカ合衆国UCLAに留学
- 2000～2001 岡山大学歯学部助教授
- 2001～2003 岡山大学大学院
歯学総合研究科助教授
- 2003～現在 岡山大学大学院
医歯薬学総合研究科教授

■講師略歴

山口 千緒里

[やまぐち ちおり]



- ブローネマルク・オッセオインテグレーション・センター
- 所属学会
● 日本医療機器学会(JSMI) ● 日本口腔イン
プラント学会 ● グローバル医科歯科感染管
理研究会
- 主な著書
● 『歯科医院の感染管理 常識非常識』2009.分
担著、クインテッセンス出版 ● 『安心安全な
インプラント 歯科医療従事者のためのイン
プラント安心基準マネージャー認定基本テ
キスト』2012年1月25日, 分担著, 株式会社自
由工房 ● 『いますぐはじめる! やさしい感染
管理』2016年4月, デンタルダイヤモンド社 ●
『「人生100年時代」のインプラント治療の考
え方』2021年, 分担著, 永永書店
- 取得資格
● 歯科衛生士 1988年取得 ● 介護福祉士 2004
年取得 ● 日本医療機器学会認定第2種滅菌
技士 2006年取得 ● 日本口腔インプラント学
会認定インプラント専門歯科衛生士 2018年
取得
- 略歴
1988 横浜歯科技術専門学校 歯科衛生士科卒
1992～ ブローネマルク・オッセオインテグレ
ーション・センター勤務
現在に至る
2014.1～2015.6 馬見塚デンタルクリニック訪問診療班所属
2014.4月～ 歯科インプラントケアジャパンアシスタントトレーナー